

囚徒おぼえ書 (連載第八回)

歪んだ闇

二十四分会(本所) 武松輝男

囚徒たちは、囚徒坑夫といわれ、給金のほぼ一割程度であった。残りの九割ほどの給金は、食費や洗濯料、非常用金として徴収された。囚徒坑夫は、囚徒坑夫だ。私が、この囚徒坑夫書の中で、墓地だけを囚徒坑夫といふのは、すべて囚徒といっているのは、そのためである。

この囚徒坑夫たちは、酒と煙草は禁じられていた。酒は煙草の原材をつくるし、煙草は坑内爆発の原因になるためであった。支柱夫、馬夫、樺取夫、雑夫、大工、石工の囚徒たちは、そのほかの嗜好品、羊かんやモチ、駄菓子類は、看守に申し出さずすれば手に入ることができた。その料金は、坑内苦役で蓄えている給金から差し引かれた。

囚徒たちが個人名簿で蓄えることのできた金額は、坑内苦役で得た。支柱夫、馬夫、樺取夫、雑夫、大工、石工の囚徒たちは、そのほかの嗜好品、羊かんやモチ、駄菓子類は、看守に申し出さずすれば手に入ることができた。その料金は、坑内苦役で蓄えている給金から差し引かれた。



真の白、梅の花、組んで軍備拡張へと、一歩一歩も散り始め、一日、大にして戦争反対を叫んでいる。一日が春の、耳をかそともしませぬ。

悲しさを語りつく

緑ヶ丘 斉藤清子

中央のトンが悪い事をする、地方のトンまで悪い事を平気でやります。労働者は一円の金をきびしく税金にとりたられ、必要経費も認められず、もくもくと働いている者をふみつけて、それだけでなく殺したり傷つけたりしながら、肥え太っているのが今の資本家たちではないでしょうか。しかし、それ以上資本をふや

十九銭であった。囚徒採運炭夫の二倍強である。女運炭夫でも二円十九銭一厘の給金をもらっていた。囚徒馬夫の三・二倍という高い給金であった。良民の採運炭夫は、男で二四四



囚徒切羽

だ。出炭能率からみても、囚徒たちはきわめて冷遇されていた。一人当りの出炭能率は、良民で二・五トンであるが、囚徒は三・一九トンであった。囚徒たちは良民坑夫に比べて二割六分も多くの出炭しながら、給金は半分であった。このように、坑内苦役で自分の肉を削り取る、そういう苦痛を帯びながら、ほんを味あわねばならなかった。

私たちが二度と戦争を起させないようにするのが、亡くなられた方たちには約束だと思ひます。昔から日本人は、熱しやすく冷めやすい人種だといわれている。お互いに体に気を付けて、平和で住みよい社会をめざしてがんばっていきましょう。

のわずかの金を蓄えていたのである。その中から一本五銭か六銭の羊かんを買わねばならなかった。囚徒はすべてが無期刑ではない。有期刑が大半を占めていた。有期刑はいつか満期になる。そして放免出獄しなければならぬ。そのとき、二十年も二十五年も地の底の暗闇の苦役に従事しながら、一銭の蓄えもない、そういうこともありえたのである。

囚徒が満期か、あるいは恩赦で出獄して坑内で働くにしても、良民坑夫と同じ待遇ではなかった。良民坑夫の八割程度であった。だから、囚徒の生活は、囚徒の生活もできない。刑務所にいるときは、支給されるものを食べるだけであつた。しかし、出獄すればそうはいかない。自分でつくらなければならない。買出しもしなければならぬ。そのほか、放免囚徒のための板窓つき四畳半一間の、それこそ小屋という粗末な納屋に住んでも、置代を払わなければならない。

だから、有期刑の囚徒たちにとって、羊かん一本の糖分が、限らない活力を生み出すことがわかった。囚徒は、自分の肉を削り取る、そういう苦痛を帯びながら、ほんを味あわねばならなかった。

年この日に婦人參政権が行使されたのを記念して制定された婦人の日。この日から婦人週間が始まります。十二日から、科学技術週間、十八日発明の日、二十日から郵便週間、二十八日は、三十年目のサンフランシスコ平和条約記念日。

短歌 ひな祭り

二十分会(三川) 町 佳郎

時折に降る雨強し人波をぬいつつ見巡る花植木市(三池初市)うす紙に覆われし顔はすしつひな段飾る妻とみたり子年に一度の出会いとぞねむるに箱より出たすおびなとめびな飾り終えひな見上げているみたり子よぼんぼりもほのかに灯る夕暮れ梅林寺去年(こぞ)は行きしが行かざりし今年に散歩の途中に見たり春の花あま並べる店先に選りつつ苗を袋に詰めぬ寡黙なりし同僚(とも)定年となり職場内の人減りゆけば淋しと思ふ記憶など思い出しつつ子らと作る竹馬は二時間程にて成りぬ鳥来よともちの下枝(しずえ)に吊したる飼箱(えばこ)に今朝ははしき声する宿題の多きを夕べぐちりいし娘(こ)の部屋の灯りの夜半も灯れる集まってきました。会は「炭掘る仲間」の合唄で始まり、実行委員会・松岡さん、執行部・杉本部長、主婦会・平川さん、政治局・民本市議、退職者の会・藤本さんからそれぞれあいさつがあり、参加者中最高年長の伊藤さんの首頭で乾杯。欲談がつかぬので、実行委員会の肝入りで空くしなしの福引があり、参加者から喜ばれました。また、ほどよく酒が入ると、歌がとび出し、にぎやかな雰囲気でした。

24・25分会が合同で 盛大に団結旅行



三月二十一日と二十二日の二日、二十四分会と二十五分会の合同旅行が玉巻保養所で行われました。この日は五十一人の参加でした。泊る場所は、毎年行が、十一時三十分からの開会に、各人の車に乗り合わせて早くから

四月の生活メモ

○卯月(うづき)。卯の花が咲く月で、十二支の四番目「卯」の月。一日エープリルフル、二日プロ野球開幕。巨人・ヤクルト、広島・中日、大洋・阪神、日ハム、西武、ロッテ、南海、阪急、近鉄。七日世界保健機構(WHO)のサンフランシスコ平和条約記念日花まつり。十日は、昭和二十一年三月から四月にかけては寒

写真展のご案内

このたび、三池労組の写真サークルの第二回目の写真展を組合事務所で開催します。会員はもとより、組合員の皆さんの多数の出品をお願いします。期日 四月五日(月)から四月十日(土)まで。なお、作品入数は四月三日までに組合事務所へ。投票していただきます。三池労組 写真サークル 会長 黒田 勝彦